

地区別危険度マップ

地区別危険度マップとは・・・

地区別危険度マップは、想定震度（ゆれやすさマップ参照）と地区ごとの建物の構造・建築年度などから地域の建物が全壊する割合を算出して色分け表示したものです。

危険度マップの凡例

記号	名称	危険度
	指定緊急避難場所（指定避難所兼用）	危険度5 全壊率 3.0% 以上
	指定避難所	危険度4 全壊率 1.0%～3.0% 未満
	第2次緊急輸送道路	危険度3 全壊率 0.5%～1.0% 未満
		危険度2 全壊率 0.1%～0.5% 未満
		危険度1 全壊率 0.0%

指定緊急避難場所は命を守るために緊急的に避難する場所、指定避難所は災害の危険性がなくなるまで一時的に滞在する場所です。まずは指定緊急避難場所へ避難し、自宅へ戻れない方は指定避難所に向かいます。

我が家の防災対策

屋内の安全対策

地震で建物が倒壊しなくても、大きな家具の転倒、家電製品の落下、ガラスの飛散などにより大きなケガをしたり逃げ場をふさがれたりします。事前に家具などの固定や配置方法の工夫を行い、屋内の安全性を高めておきましょう。

転倒防止金具・飛散防止フィルムを活用しよう

- ◆壁・柱・鴨居と家具を固定するタイプと、床などに固定するタイプがあります。家具や室内の状況によって使い分けましょう。
- ◆扉・引き出しが閉かないように固定します。さらに、収納物の落下を防止するために棚板にふせんを置いたり、木やアルミ棒による飛び出し防止棒をつけると安心です。
- ◆窓ガラスや棚のガラスが飛び散るのを防ぐため、ガラスに飛散防止フィルムを貼ります。

置き方に工夫を

- ◆家具の下部の前方に転倒防止のビニール樹脂状のものを入れ、壁にもたれ気味にします。
- ◆出入口や通路にはなるべく荷物を置かないようにしましょう。
- ◆就寝場所に家具が倒れてこないように、配置の工夫をしましょう。

照明器具の補強を

- ◆吊り下げ式蛍光灯は、チェーンなどで止めて補強しておきましょう。

屋外・建物の安全対策

地震の揺れにより、ブロック塀などが崩れてケガをしたり、ガスボンベが倒れて破裂し、火災につながる場合があります。事前に家の周りを点検し、屋外の安全性を高めておきましょう。耐震診断で安全でない点検された場合は、適切な耐震改修を行うことで安全性を確保できます。専門家に相談してわが家にもっとも適した工事方法を選び、耐震改修を行いましょう。

壁・塀

- ◆壁や塀にひび割れなどがなく、腐ったりシロアリに食われたりしていないか点検しましょう。
- ◆ブロック塀は、地震の揺れにより崩れる可能性があるため、できれば安全な生垣などにしましょう。

ガスボンベ

- ◆ガスボンベは、動かないように壁に固定しましょう。
- ◆ガスボンベの周りには、物を置かないようにしましょう。

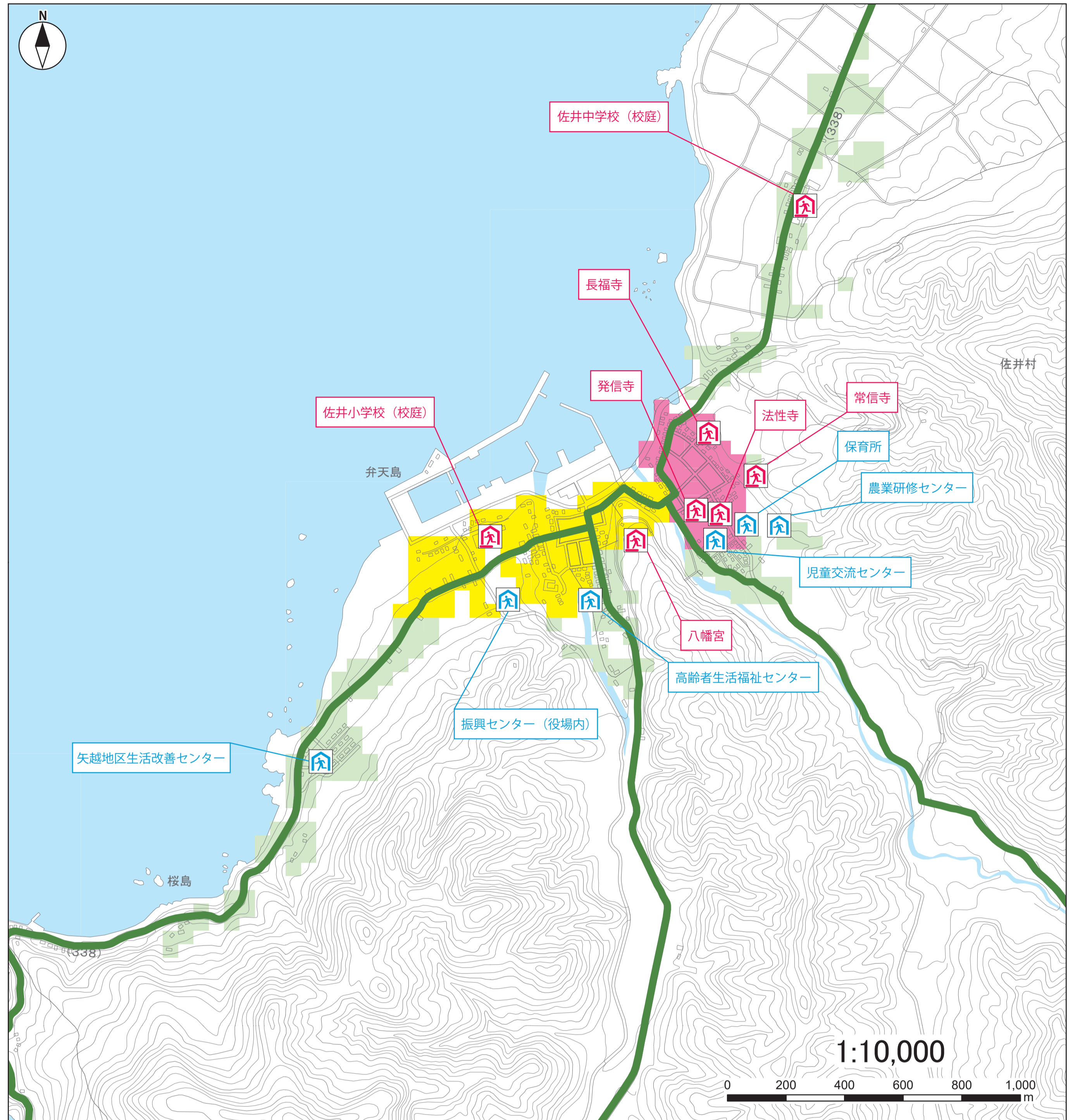
壁を補強する

- ◆耐力壁の量を増やすと、建物は丈夫になります。
- ◆壁の配置にかたよりのあると、地震で建物がねじれるおそれがあります。壁の少ない側に耐力壁を設ける補強をして、建物のバランスを良くします。

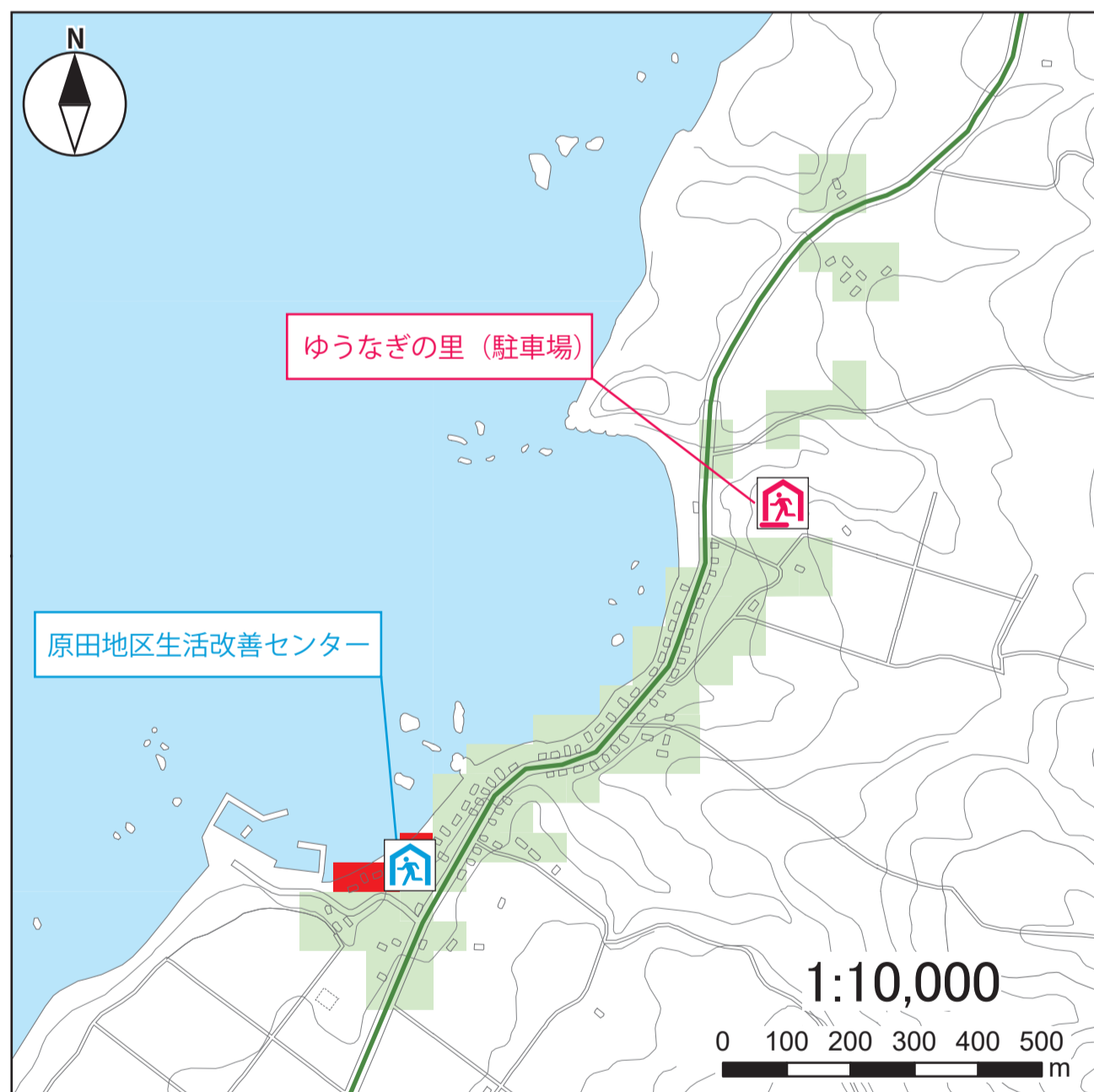
建物の基礎を補強する

- ◆土台が大切。基礎の補強で建物の性能UP。
- ◆無筋コンクリートは耐震性に乏しく、崩壊しやすいので、新たに鉄筋コンクリート造の基礎を抱き合わせます。

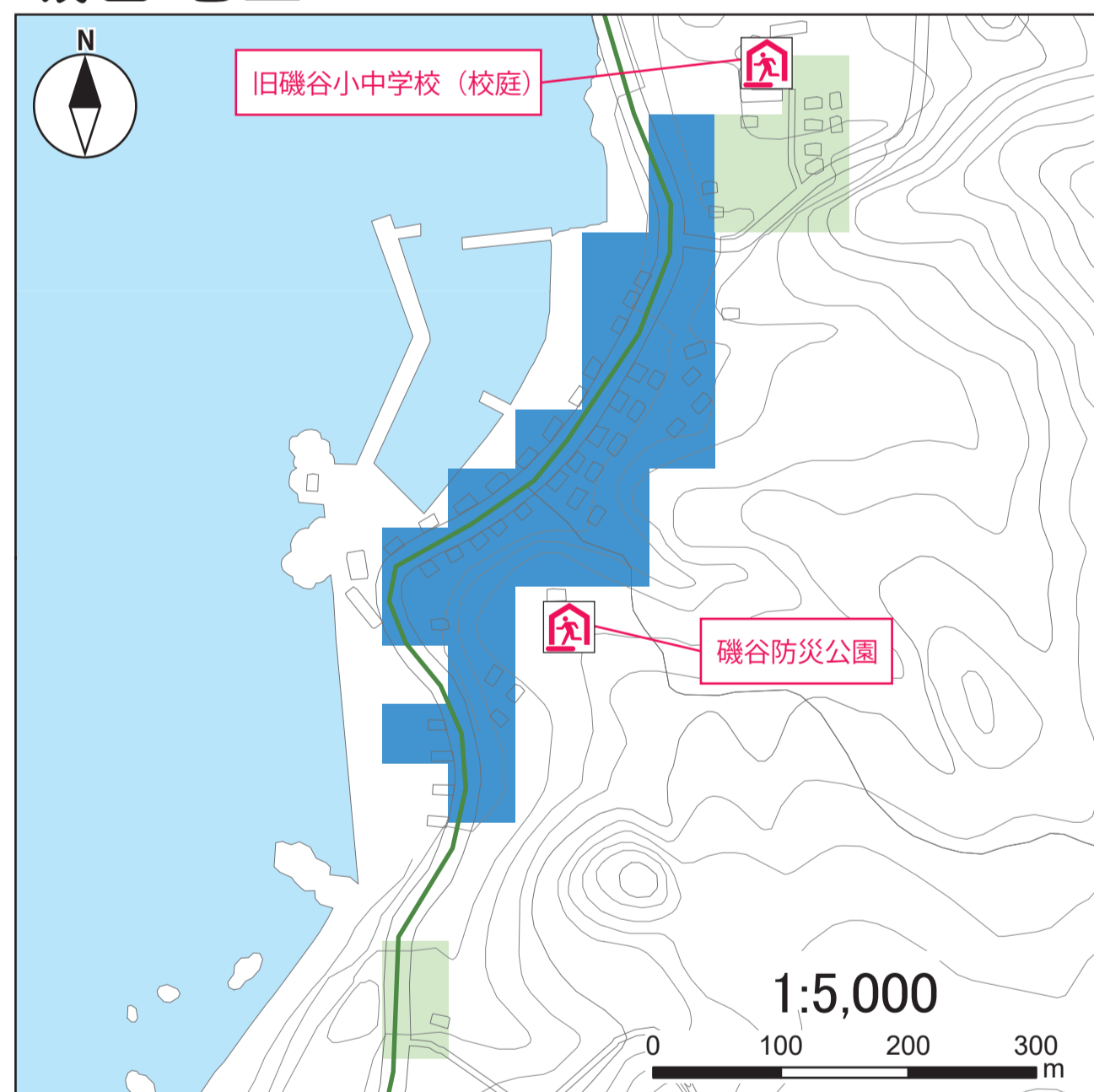
佐井・矢越地区



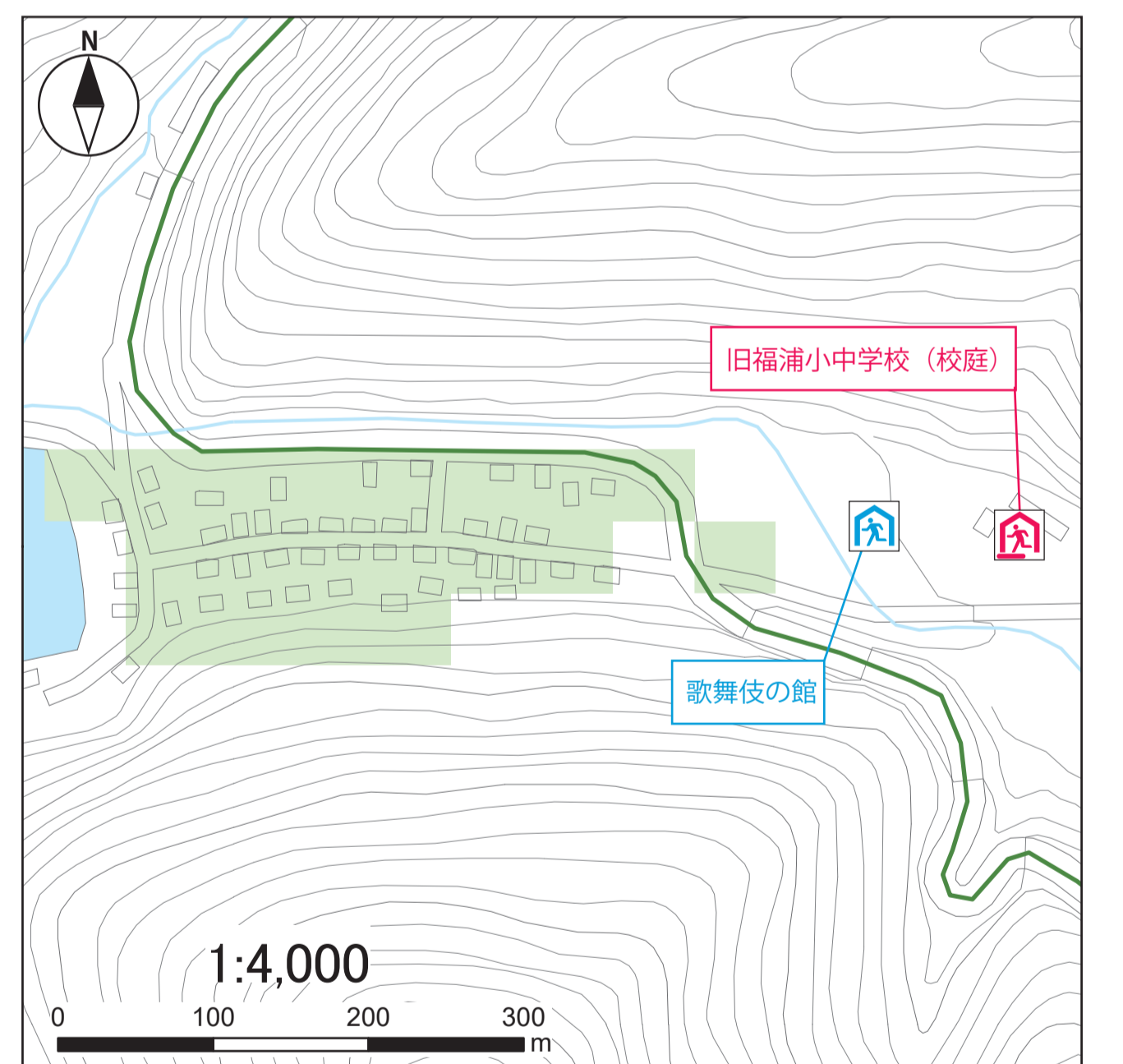
原田地区



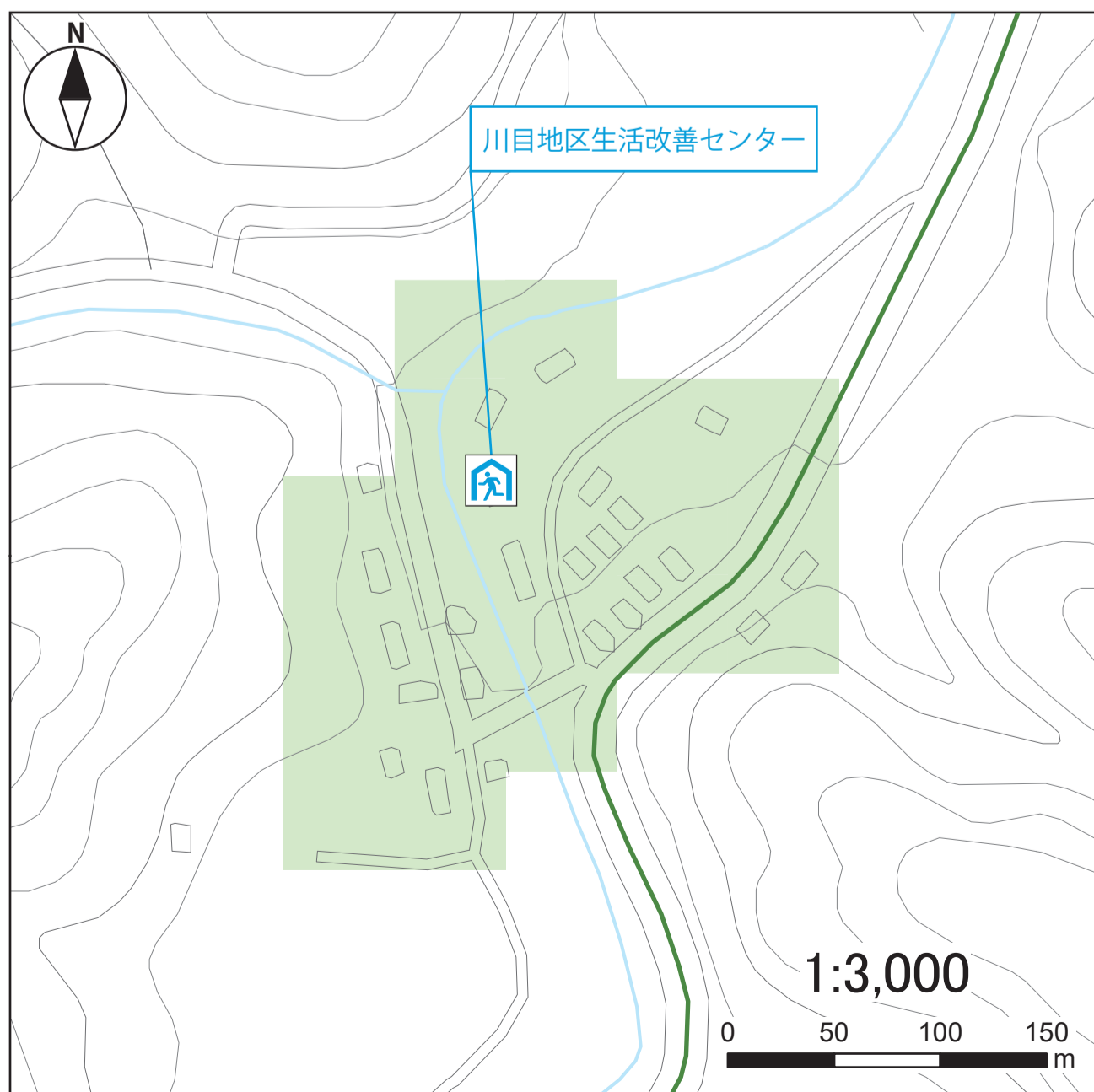
磯谷地区



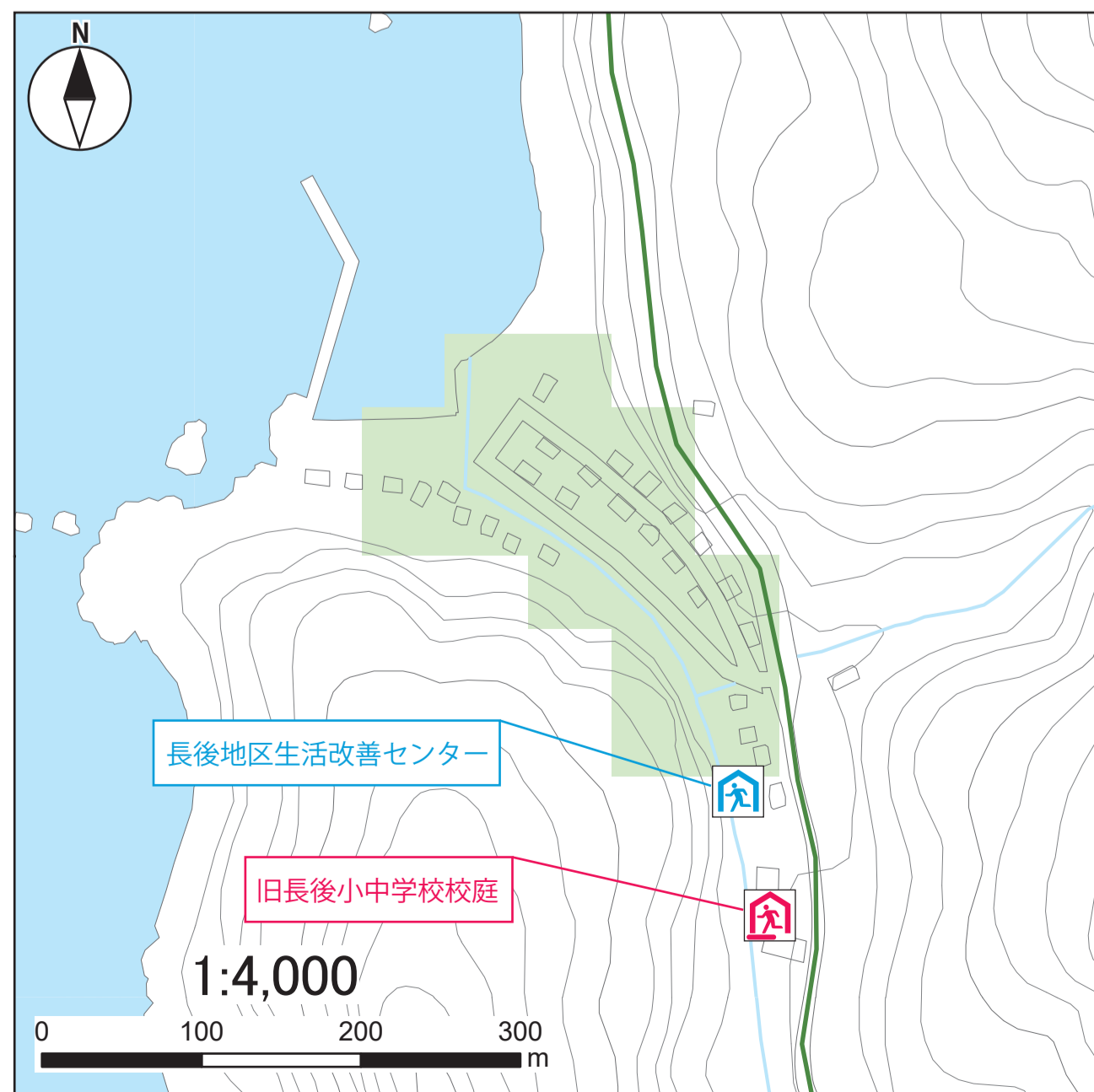
福浦地区



川目地区



長後地区



牛滝地区

